

新勤評反対訴訟団ニュース

第38号

2010年12月4日
新勤評反対訴訟団
事務局 井前弘幸
〒530-0047
大阪市北区西天満
4-3-3 星光ビル1F
TEL 06-6311-1250
shinkinpyouhanta
i@trad.ocn.ne.jp

府教委 給与格差拡大を 提案できず

府教委

給与反映が育成につながるなら認めざるを得なくなった府教委

大阪府教委は11月30日に教職員組合に対して評価・育成システムに関する新提案を行いました。新提案はシステムのマニュアルの部分改定に限定されたもので、給与格差の拡大に関する内容は何も含まれていませんでした。大阪府教委は4月以降、橋下知事の号令にあわせて給与格差の拡大のために動いてきました。知事の「頑張った者が報われる」とは給与格差を拡大して教職員を無理矢理競争させようと言うものです。しかし、結局今回は提案できず、見送らざるを得ませんでした。

も含めた教職員の大多数がシステムの給与反映は意欲や資質能力の向上につながるかと否定的評価をし、教職員の大半はシステムそのものも意欲や資質能力の向上につながるかと答えました。さらに校長も教職員も自由記述でさまざまな批判を連ね、システムがいかに教育活動を損ない、教職員に負担とストレスを与えているかを示しました。この結果から言えば、システムは害悪だけを作り出しているのだから、即刻廃止するしかないはず。府教委はアンケート結果をまじめに検証し、直ちに廃止すべきなのです。

まだ教職員に対する管理を強めるのですか

これは評価・育成システムに対する教職員の強い批判と反発の結果です。私たち訴訟団も昨年秋季に高校を対象にアンケートを実施したのを初め、今年6月以降府教委の格差拡大の動きに対して厳しい批判と追及の活動を続けてきました。皮肉なことに府教委自身が実施した「評価・育成システムに関するアンケート」で校長も含めた教職員の広範な不満と反対が現れたことが最大の打撃になりました。

アンケート結果から言えば廃止ではないのですか？

府教委のアンケートでは、校長

府教委が11月30日に組合に提示したシステムのマニュアルの部分改定では、こりもせずに教職員に対する管理強化だけが押し出されています。①自己申告票の提出期限を設定し、これに遅れたものを「不提出」扱いにする。③さらに目標設定への制限を強化し、校長の提示する学校教育目標と違う目標を書けば、書き直させるか、それを理由に低い評価とする。(裁判で府教委の証人は、目標と異なっ

ても容認されると主張したが、真つ赤な嘘であった。③教職員に「求められる行動パターン」を明示して押しつける。④提言シートに記名させる。⑤小中の教頭を一次評価者にする。⑥S A B C Dは評判が悪いので、名前だけS S A B Cに読み替える(なんて姑息な)。これらはアンケートで出た問題を何一つ解決も緩和もしないばかりか、管理を強化することでシステムの強制性をより強めるだけです。府教委は同時に「評価・育成システムの実施結果についての検証」と題する文書を提示しました。この文書はアンケート結果を大きく

12・19全国集会を成功させ 新勤評制度の廃止を実現しよう

評価・育成システムと給与反映は廃止するしかありません。府教委は今回は給与格差拡大提案を見送りましたが、あきらめた訳でも、路線を放棄した訳でもありません。何度でも給与格差を拡大しようとしてくるでしょう。それを食い止めるためには、アンケート結果が出た今の情勢を利用し、さらに強い形で府教委に教職員の反対の

声突きつけ廃止に追い込むしかありません。いまこそ一人一人の教職員が声を上げ、行動で示しましょう。

まず、12月19日の全国集会に周知の教職員、市民を誘って中央公会堂をうめる大規模な集会として成功させましょう。是非みんなで結果してください。アンケートをきっかけに教組も

すべてシステムの撤回を府教委に求め交渉を続けています。集会後も引き続き教職員の声を上げ続け、府教委を追いつめるような運動を続けられ、システムを廃止に追い込むことも不可能ではありません。アンケートに現れた教職員の声に打撃を受けうるたえている府教委に廃止を認めさせる現実的な可能性があります。頑張りましょう。

ねじ曲げるもので、とうていまともな検証ではありません。例えば給与反映では否定的評価が大半であることを認めながら、「給与反映は資質・能力向上等に直接つながっている」とは言い難いが、マイ

ナスにもなっていないと判断でき「等」としています。校長や教職員が多数の自由記述で書いた弊害や苦痛を府教委はなんだと思っ

**これでええんか橋下「教育改革」
新勤評を許さない12・19全国集会**

あかんやろ!

2010年12月19日(日) 大阪府中之島中央公会堂・大ホール

主催 全国集会実行委員会(連絡先訴訟団) 協力券 1000円

11時30分 開場
12時00分 プレ企画(DVD「はながゆく(特別編集版)」上映)
13時00分 オープニング企画「浪花の歌う巨人」 趙博さん

パネルディスカッション
「教員評価は子どもから教育への権利を奪う」
・教育学研究者(中田康彦さん・一橋大学)
・弁護士(冠木克彦さん)
・元東京都立高校校長(土肥信雄さん)
・大阪府立高校卒業生
・大阪の子どもの保護者
・現職教員(新勤評反対訴訟団原告)

全国各地(北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄および海外・韓国など各地に要請中)からの発言
保護者・市民・教職員 様々な人々からの訴え(教員評価制度、「日の丸・君が代」強制、橋下「教育改革」、子どもの権利、教育差別、労働現場他)

行動の呼びかけと集会アピール
16時45分 デモ・パレード

